

西浦地区 かわら版 第2号

西浦地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

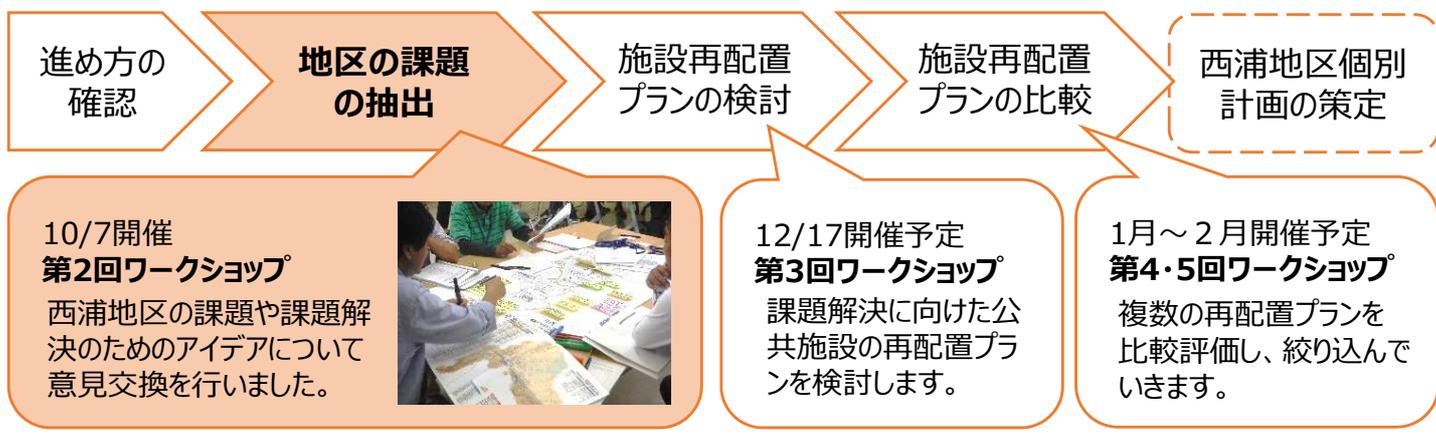
西浦地区の課題とその解決方法について話し合いました。

蒲郡市では、今年度、西浦地区にある公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来について、地区にお住まいの皆様と協働で考えていく機会として、「西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。10月7日(土)に西浦公民館にて開催された第2回ワークショップの内容をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップの場で示し、検討を進めていきます。（裏面の「お知らせ」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップをはじめ、広く地区の皆様からいただいたご意見を反映させた、西浦地区の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を策定します。下図のように段階的に検討を進めます。第2回ワークショップでは、「西浦地区の課題」と「課題を解決していくためのアイデア」について話し合いました。



ご意見を7つの視点にまとめ、各視点について検討しました。

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップでのご意見を踏まえ整理した西浦地区の皆様が大切だと思っている7つの視点について話し合いました。7つの視点の他に追加すべき視点はないか、それぞれの視点について課題を解決するために具体的にどのような取り組みを行ったらよいかについて意見を出し合いました。

以下は、7つの視点と各視点のもとになった第1回ワークショップでのご意見等からの抜粋です。

① 地区の活性化

- 若い世代が定着しない
- 空き店舗を活用してまちの活性化を図る
- 積極的に他地区との交流を図る

② 人口減少・少子高齢化社会への対応

- 高齢者が集まれる場所を確保する
- 子育て環境を充実
- 地区の人口を増やすための取組を実施する

③ 教育環境の適正化

- 児童生徒数が少なく、切磋琢磨する環境が作りにくい
- 小学校と児童クラブが離れており不便

④ 災害時の対応

- 津波が心配だ
- 防災情報の提供に課題がある

⑤ アクセシビリティへの配慮

- 車を使わない人や高齢者の交通手段を確保する
- 市中心部へのアクセスが不便

⑥ 将来負担の軽減

- 人口減少・少子高齢化に伴う収収減
- 施設の有料化により財政負担を軽減

⑦ 運営の改善

- 公共施設の様子が伝わらない
- 維持管理の担い手の確保
- 他地区の学校と部活動を統合

第2回ワークショップのご意見（抜粋）

各視点について課題を解決するためのアイデアを出し合いました。

① 地区の活性化

- 空き家や空き店舗などを、公共的な場所として使うことも公共施設の再配置と同時に考えていくべきだ。
- 学校の空き部屋を地域の活動に活用できるとよい。
- 小学校に保育園、公民館、児童館、派出所、消防署を複合し、一体感のある地域の拠点を作ってはどうか。
- 小学校と中学校をそれぞれ複合化し、地域に学校を中心とした2つの拠点を作ってはどうか。
- 学校と公民館や地域の交流スペースを複合化すれば、学校と地域住民の交流を増やせると共に、生涯学習をする人たちや高齢者とのふれあいが児童、生徒により影響を与えるのではないか。
- 児童館は子どものため、公民館は大人のためと施設を分ける必要はない。複合化した方が、多世代交流が期待できる。
- 学校や公民館などそれぞれの施設の目的とよさを生かすには、現状の立地で縮小して建て替えた方がよい。

② 人口減少・少子高齢化社会への対応

- 病児保育や祝日保育の実施などによって子育て環境の整備を図り、特に若い世代を移住、定着させたい。
- 西浦地区の公民館は、高齢者が集う場所になっていない。カフェや食堂があり、農作物や海産物、手づくり品の販売所があるような施設ができると、高齢者のコミュニティの場となり生きがいづくりにつながる。
- 小中学校、保育園が1カ所があれば、異年齢との交流の場となり、教育的な効果も期待できる。

③ 教育環境の適正化

- 児童館で行われている児童クラブが小学校と離れていて不便なので児童館から機能を切り離して、小学校に統合するのがよい。
- 子どもの教育環境として児童生徒数が少ないのはよくないと思うので、形原地区と統合するのもやむを得ない。遠距離通学が課題になるがスクールバスなどで補うことはできるだろう。
- 十分な数の部活がないからという理由で、西浦中学校を形原中学校と統合するのはどうかと思う。形原中学校に通うことになると道路が狭く歩道がないので危険だし、自宅近くにあるほうが通いやすい。
- 西浦の小中学校の生徒数が少ないのなら、学区境界を少し移動させて、生徒数を増やせないか。
- 小中学校を集約化すれば、教師は一貫して子どもを見ることができるとよい。
- 中学校は生徒たちが学習に集中できる環境づくりが大切だ。

④ 災害時の対応

- 西浦中学校は高台の立地を生かせる今の場所での防災機能を維持できるとよい。その際、高齢者や車イス利用者などの弱者に配慮する必要がある。
- 施設を複合化するなら、安全安心なまちづくりを進めていくために、防犯や防災の機能も入れてほしい。
- 避難所は1カ所に集約するより分散したほうがよいので、公共、民間に関わらずに設置してはどうか。
- 保育園、小中学校が複合化されれば、子どもたちの避難所が集約されるので子どもを引き取る際も安心だ。

⑤ アクセシビリティへの配慮

- 徒歩や自転車で安全に通学できるように、通学路の整備をすることが重要だ。
- 施設を複合する際は、駐車場の整備もしてほしい。複合化することで駐車場がまとめて確保できるとよい。
- 運転できない高齢者にとって車でないと行けない場所は、敷居が高い。公共施設に通いやすくなるようにアクセスを整備してほしい。
- 小学校に施設を複合すれば隣接する公民館の敷地を使い、アクセスもしやすい。

⑥ 将来負担の軽減

- 小中学校を統合して建て替えば、体育館、保健室、防災施設などが共有できるので借地代、建築費、防犯にかかるコストが抑えられ、経費の節減につながる。
- 複合施設をどこに作るかは、借地代のことも考えた上で検討するとよい。
- 将来の財政負担を軽減するために公共施設の有料化を進めるのがよい。
- 空き地を公共施設のために無償で貸すシステムを作ってはどうか。
- 維持管理やコミュニティバスの運行に、ボランティアを活用すればコストの削減につながるのではないか。

⑦ 運営の改善

- 公共施設の催事スケジュールが、もっと簡単に見られるようになれば参加者が増えるのではないか。

○ 追加すべき視点

- 西浦は祭りが盛んな地域だが、行事への参加や金銭的な負担が地域離れにつながっている面がある。「文化の継承」の視点を提案する。
- 道路が暗いことや野犬が多いことへの懸念があるので交通安全や犯罪からの安全確保の視点を追加してほしい。

お知らせ

地区の皆様のご意見を募集しています。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **西浦地区のまちづくりや公共施設について**

次回ワークショップは、

**12月17日（日）午後1時30分から
西浦公民館 2階 講堂** で行います。

ご意見をお聞かせくださる方や傍聴をご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当
TEL 0533-66-1158 / FAX 0533-66-1183
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップについて、詳しくは市ホームページをご覧ください。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>